

第 55 回インナー大会・プレゼンター
シヨ部門

足資料で紙以外のものを使用する場合は、
何を使うか、どのように使うかを参加者持

所属	専修	大学	渡辺	ゼミナール
チーム名	10310			
テーマ	商店街を人と人とをつなぐ場に～新しいかたちのコミュニティ～			
連絡先① (代表者)	代表者名	西岡俊介		
	電話	自宅 :	_____	
		携帯 :	_____	
	アドレス	携帯 :	_____	
		P C :	_____	
連絡先② (副代表者)	副代表者名	塩海加奈江		
	電話	自宅 :	_____	
		携帯 :	_____	
	アドレス	携帯 :	_____	
		P C :	_____	
参加者氏名	西岡 俊介	塩海 加奈江		
	篠崎 隼太郎	佐俣 里紗		
	武田 菜々	横田 彩香		
	外塚 彩樹			
		(合計人数)	7	名
使用機材	主催者常備機材	参加者持込(無)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ PC(PowerPoint 2013) ・ プロジェクター 			

企画シート

※代表者・副代表者名は参加申し込み時と
ご変更のないようお願いいたします。
やむを得ずご変更される場合は必ずその
旨をメールにてご連絡ください。また、補

込欄に記入をお願いいたします。

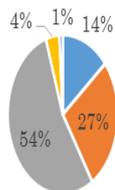
※一次予選のみ小規模教室にはマイクは
御座いませんが他の教室には常備されて
おります。

<企画概要>※企画概要は自由記入で
A4・2枚までとなります。

【テーマ設定の動機】

現在、日本では人口減少や少子高齢化という社会問題が顕著に表れている。高齢者への対応、子育てしやすい環境が必要とされる現代に重要となるのが地域コミュニティである。国民の地域コミュニティに対する考え方は、長谷工アーベストが2011年に行った調査によると、東日本大震災以降、地域のつながりが大切だと考えている人はさらに増え、約95%を占めている。

震災後、住民同士の繋がり・コミュニティが「大切だと思う」意識は変わりましたか？



- 以前はあまり大切だと思わなかったが、最近大切だと思うようになった
- 以前から大切だと思っていたが、最近更に大切だと思えるようになった
- 以前と変わらず大切だと思う
- 大切だと思わない
- その他

このことから、地域コミュニティの大切さが見直されており、地域や近所の人と人のつながりは欠かせないものだという動きが活発になっている。日本の社会問題である人口減少に対応し、増えてゆく高齢者が暮らしやすいまちにしていくことと同時に、子供を安心して産める、安心して育てられるまちになることが必要であると考え、私たちはまちに根付く商店街の在り方に注目して調査をし、実際に商店街とともに活動をした。

【テーマに関する現状】

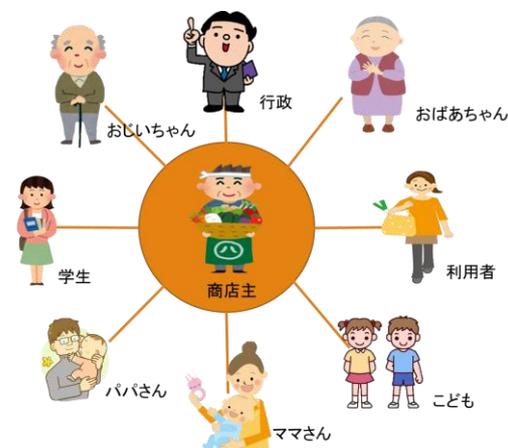
2011年の震災から絆や人とのつながりが重要視されている一方で、人と人とのつながりは希薄になっている。

【提案】

人と人とのつながりや助け合いの必要性が見直されているなか、それに反して以前のような親密な近所づきあいは煩わしいと思う人も増えているのが現状である。普段はあいさつをするくらいであっても、何か困ったときには助けをくれたり、夜道を歩いていたら声をかけてくれたりするような、つかず離れずの関係のつながりが求められている。そんな人と人とのつながりのある、あたたかいまちを形成すべく、新しいかたちのコミュニティが必要である。

そこで「商店街を人と人をつなぐ場」にすることを提案する。

店主を中心に広がる利用者、学生、行政とのつながり、店主と市民とのつながり、市民同士のつながり、また商店街の活動に私たち学生が加わることで、そのつながりはさらに増えていく。



【私たちの実証】

私たちはこの提案を実証するために、2つの商店街で店主や市民の方々とともに活動をしてきた。

① 新丸子商店街(神奈川県川崎市中原区)

地域の人により親しんでもらえる商店街になることを目的にした、「まるこやさしズム 21」という活動のもとで、店主と利用者、学生、行政がかかわり新しいコミュニティの形成を図り、4年間ともに活動している。

・ハートステッカー＝店主×利用者のつながり



「老眼鏡あり」「ベビーカーOK」のような各個店でできることをアイコンシールにして店頭に掲げ、やさしさの見える化をしている。

・まるこやさしズム 21 定例会合＝店主×行政×学生×利用者のつながり

毎月1回、活動報告やアイデア出し、意見の交換を実施し、ともに商店街を活性化させようとするコミュニティが形成。

・利用者へのアンケート調査＝店主×利用者×学生×利用者のつながり

学生による街頭調査により、まるこやさしズム 21 を応援、盛り上げていこうというコミュニティを形成している。

② 登栄会商店街(神奈川県川崎市多摩区)

・青年部 定例会合＝店主×行政×学生×利用者のつながり

毎月1回、活動報告や意見の交換をしている。利用者の人や同じような活動をしている人たちも巻き込み、人と人との新しいつながりの場と形成しようとしている。

・まちあるきマップの作成＝店主×学生×利用者のつながり

学生による街頭アンケートをもとにマップ作成をしている。店主と学生を中心にマップをつくる過程で、子供と一緒にまちを歩き危険なところを探し、子育てをするママさんや高齢者の方々など生の利用者の情報をマップに取り入れ、商店街を通して新しいコミュニティを目指している。

【展望】

まちにずっといる商店街を軸に、店主や利用者、学生など人と人がつながること、新しいコミュニティの形成ができ、子供や高齢者も含めた人にやさしい・あたたかいまちが作りあげられると考えられる。